

永原学園地域子育て支援センター

さんこう・ぽぽらだより

令和6年11月発行・第211号

認定こども園西九州大学附属 三光保育園

TEL:0952-31-6877

「子どもの育ちと直接体験」

分園の1~2歳児のこども達と1時間余り遊びを共にしました。気温も下がり雲がかかった園庭には、好きな遊びを楽しむこども達の笑顔が溢れていました。砂場では、様々な道具を使って見立て遊びが大盛況です。“えんちょうせんせい・・・どうぞ!”と、言わんばかりにもらったカップの中には砂が山盛りです。「はて??」「あっち・・・このコーヒー熱かった!!」と反応してみると、そのしぐさが面白かったのか、満足そうに向こう側に走っていきました。次の子は、プリンカップに半分ほど砂を入れたカップとスプーンを持ち、私に差し出しました。「はて??」「よ～し、プリンつくろうね!見ててね」と言って、半分の砂にはみ出すほどの砂を加えて、「きゅっ、きゅっ!!次はね、そ～と、そ～とポン!」と土の上にひっくり返して見せました。無事にきれいな形で出来上がったプリンを見て大喜び。その子はそれから同じように「そ～と、そ～とポン」・・・と言いながら7個のプリンづくりを楽しみ、満足したように次の遊びに向かいました。見たて遊びからふとしたきっかけで始まったプリン屋さんごっこ。できるたびに差し出し私の反応を嬉しそうに楽しんだ経験は、次の遊びの探究にも繋がります。豊かな直接体験を大切にしましょう。
(三光保育園園長)

芋ほりやハロウィンパーティーをして楽しみました♪



うんとこしょ!どっこいしょ!



11月・12月の「子育て支援事業」のお知らせ

①実施日

- ・11月11日(月)・・・なかよしミックス
- ・11月13日(水)・・・赤ちゃんの日
- ・11月14日(木)・・・高木瀬あいあいサークル
- ・11月21日(木)・・・環境講座(エコプラザ)
- ・11月25日(月)・26日(火)・27日(水)・・・フリーデー
- ・12月3日(火)・・・フリーデー
- ・12月4日(水)・・・東与賀よかよかサークル
- ・12月5日(木)・・・ミックス
- ・12月24日(火)・・・赤ちゃんの日

②時間:10時~12時

③開催場所:子育て支援センター・運動場

④駐車場:三光保育園駐車場

※三光幼稚園の駐車場と間違わないようお願いします。くすくすパン屋さんとファミリークリニックの間の道を南側に入ると、左手に三光保育園があります。

⑤申し込み方法:電話予約

11月分の申し込みは、11/1(金)~9時半~17時です。

12月分の申し込みは、12/2(月)~9時半~17時です。

※赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮下さい。

★様々な状況により計画の変更や中止が予想されるため、お出かけの前に必ず、ホームページで支援事業の有無をチェックしてください。子育て支援のラインアカウントがありますので、ライン登録をしていただくのが、一番お勧めです。

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九州大学短期大学部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

(受付時間:平日の9:30~17:00まで)

さんこう・ぽぽら(園庭を含む)開放の時間帯について

【開園日】〇月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】 〇9:00~12:30、13:30~16:00

※12:30~13:30 昼休み・準備の為閉園

【お知らせ】

- ※熱中症指数が高い場合は、安全上中止します。
- ※園行事の為、ご利用できない場合があります。
- ※出前支援の場合は、担当職員が不在になります。
- ※ご希望の場合は電話でお問い合わせください。

「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方にお越し頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか?

日時:11/18(月)おにぎらず作り

12/20(金)クリスマス会



寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

子育て便り

「なぜおもちゃの引っ張りあいが子どもの集中を高めるのか．作業療法士の視点」

西九州大学リハビリテーション学科作業療法学専攻・専攻主任・小松洋平

作業療法士がどのように子どもたちの成長をサポートできるかについて、お伝えします。作業療法士は、対象者が「やりたい」と思う活動や「やらなければならない」と感じる生活行為が出来るように、心と体の両面からアプローチして支援します。また、環境を整え、対象者の好きな活動を活かしながら、心身の改善を図ることが得意です。

作業療法士の対象は、子どもからお年寄りまで幅広く、最近では保育園や小学校での活躍も増えています。岐阜県のある小学校では、学校内に作業療法室が設置され、注目を集めました。このような取り組みが進んでいる背景には、子どもたちの発達を支えるために作業療法が重要な役割を果たしているからだと思います。

先日、私は放課後デイサービスを訪れた際、職員の方から「子どもたちの集中力を高める遊びはありませんか？」と相談を受けました。その際に、新聞紙で作った棒を使った引っ張り合い遊びを提案しました。この遊びは、子どもたちの「固有感覚」を刺激し、集中力を高める効果があります。

固有感覚とは、身体がどのように動いているかを感じる力です。棒を引っ張り合うことで、関節が「引っ張られた」と感じ、その情報が脳に伝わります。これにより、各関節の位置が脳に入力され、「自分の体がここにある」という感覚が強まります。これが集中力の向上に繋がるのです。

固有感覚が集中力を高める理由は、体の位置や動きをしっかりと感じ取ることで、周りの状況にうまく対応できるようになるからです。例えば、体がどこにあるのかやどう動いているのかが分かると、目の前の遊びや課題に集中しやすくなります。これにより、子どもたちは遊びや学びに夢中になり、その結果、集中力が自然と高まっていきます。

このようなシンプルな遊びでも、子どもたちの発達を促進する効果があります。ぜひ、放課後や家庭で実践してみてください。ただし、遊びがエスカレートしてけんかにならないよう、適切に見守りながら行うことをお勧めします。

